

〔西宮記臨時三〕圍碁

延喜四年九月廿四日、召寬蓮、右少辨清貫等、令圍碁唐綾四匹、法師勝有別錄

〔古今著聞集博十二〕延喜四年九月廿四日、右少辨清貫、寬蓮法師を召て圍碁をうたせられけり、唐綾四段懸物にはいだされけり、寬蓮勝て給けり、聖代にも斯様の勝負禁なかりけるにこそ、同御時碁勢法師御前にて圍碁を仕りて、銀の笙をうち給りてけり、生涯の面目に思ひて、死けるときは棺に入べきよしをなんいひける。

〔今昔物語二十四〕碁擲寬蓮值碁擲女語第六

今昔六十代延喜ノ御時ニ、碁勢寬蓮ト云フ二人ノ僧、碁ノ上手ニテ有ケリ、寬蓮ハ品モ不賤シテ、宇多院ノ殿上法師ニテ有ケレバ、内ニモ常ニ召テ御碁ヲ遊シケリ、天皇モ極ク上手ニ遊シケレドモ、寬蓮ニハ先ニツナム受受〇受一劣サセ給ヒケリ、常ニ遊バシケル程ニ、金ノ御枕ヲ懸物ニテ遊シケルニ、天皇負サセ給ニケレバ、寬蓮其ノ御枕ヲ給リテ罷出ルヲ、若キ殿上人ノ勇ヌルヲ以テ奪ヒ取セ給ヒニケレバ、此様ニ給ハリテ罷出ルヲ、奪ハセ給フ事度々ニ成ニケリ、而ル間猶天皇負サセ給テ、寬蓮其ノ御枕ヲ給ハリテ罷出ケルヲ、前ノ如ク若キ殿上人數追テ、奪取ラムト爲ル時ニ、寬蓮懷ヨリ其御枕ヲ引出テ、后町ノ井ニ投グ入レツレバ、殿上人ハ皆去ヌ、寬蓮ハ踊テ罷出ヌ、其後井ニ人ヲ下シテ枕ヲ取上テ見レバ、木ヲ以テ枕ニ作テ金ノ薄ヲ押タル也ケリ、早ク實ノ枕ヲ取テ罷出ニケリ、而ル枕ヲ構ヘ持タリケルヲ投入レケル也、而テ其枕ヲ打破テ、仁和寺ノ東ノ邊ニ有ル彌勒寺ト云フ寺ヲバ造ル也ケリ、天皇モ極ク構タリトテ、咲ハセ給ヒニケリ、

〔扶桑略記二十三〕延喜七年正月三日庚辰、午二刻行幸仁和寺、奉拜法皇〇宇多、如例、法皇召式部卿親王、左大臣、令侍仰親王大臣等曰、還御時可寂寥、宜圍碁、將懸物有好馬、則召碁局、式部卿敦實親王與左大臣時平朝臣碁、其間御厩別當春野、牽鹿毛御馬立庭中、一局終、左大臣勝、